

# 選定方法及び評価

## 4 - 1 表彰業務

番号	所属	業務名 (発注者)	管理技術者	照査技術者	主務担当者
1	高田支店	糸魚川地区ため池一斉点検 調査 (県：糸魚川農林)	小林敏弥	池田克実	塚田光瑛
2	新潟支店	阿賀野川流量観測 (国：阿賀野川河川)	金井和人	—	池田正志 山下大輔 南波憲輔
3	長岡支店	図面作成等その2 (国：信濃川河川)	渡邊邦彦	樺澤一夫	渡邊尚斗
4	技術本部	新津郷地区排水整備構想検 討 (国：信濃川水系土地)	樺澤一夫	山本 茂	高野陽平 宇津木悟史 赤堀悦朗
5	用地部	国道8号用地調査等 (国：新潟国道)	八子純児	廣田俊一	長谷川幸治 小黒孝紘 五十嵐謙二 鈴木正明

## 4 - 2 表彰までの流れ

月・日	事項	特記
7月下旬	社内表彰の実施を決定 (取締役会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 推薦件数</li> <li>・ 3支店は各 3</li> <li>・ 新潟支店・村上支店で 5</li> <li>・ 技術本部 1</li> <li>・ 用地部 1</li> </ul>
8月上旬	各支店等に表彰候補業務の推薦を依頼	
8月19日	選定方法、評価項目、配点を決定	
8月下旬～ 9月上旬	成果報告書の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 担当</li> <li>・ 大嶋、吉田</li> </ul>
9月10日～ 9月17日	管理技術者、主務担当者へのヒアリング	
9月27日	評価点の確認、評価点による順位付け	
10月6日	社内審査会の開催、表彰業務を決定	

## 4 - 3 評価項目

### 評価項目

- ① 業務特性と創意工夫
- ② 工程管理
- ③ 説明調整能力等
- ④ 成果物の品質
- ⑤ 貢献度
- ⑥ 効率性

1	高田支店	糸魚川地区ため池一斉点検 調査（県：糸魚川農林）	小林敏弥	池田克実	塚田光瑛
---	------	-----------------------------	------	------	------

山間部に点在する24か所のため池について、支店内で協力体制を確立し効率的に調査点検業務を進めたほか、他支店と調査方法等を統一し成果物の品質向上を図った。

また使用されていないため池の現状を整理し、参考資料として成果品に添付するなど、創意工夫して業務を進めたことも大いに評価できる。

2	新潟支店	阿賀野川流量観測 (国：阿賀野川河川)	金井和人	—	池田正志 山下大輔 南波憲輔
---	------	------------------------	------	---	----------------------

高水流量観測は、阿賀野川の出水に合わせて、20人規模の体制で行う現地調査である。出水時の調査のため、休日・夜間でも出勤があり、新潟支店はほぼ総出、危険も伴う心理的負担の大きい業務である。

管理技術者は、業務の特性や現場条件をよく理解し、調査体制を整え、出水時は遅滞なく出勤し、調査結果は写真や図、表を活用してわかりやすくとりまとめ、高いレベルで業務を遂行した。

出水が予想される時は、監督員の指示を待つことなく雨量や水位の情報を確認し、監督員と連絡を取り合い出勤の判断を仰いでいる。調査体制に関しても、支店の一体感が感じられる業務である。

3	長岡支店	図面作成等その2 (国：信濃川河川)	渡邊邦彦	樺澤一夫	渡邊尚斗
---	------	-----------------------	------	------	------

業務内容を特定しない形の年間契約で、随時、指示を受け、図面作成や設計を行う業務である。指示は多岐にわたり、緊急を要するものがほとんどで、防災ステーションの配置検討や信濃川本川の護岸設計など高度な設計もある。いつどのような指示があるかわからず、継続的に緊張を強いられる業務である。

管理技術者は、発注者の指示を的確に理解し、作業チーム7人のスケジュールの共有など、チームとして総力を発揮しやすい環境を整え、業務を円滑に進めた。

成果報告書もよく整理され、設計の流れもわかりやすい。長年の実績が蓄積され、広範で難解な問題への対応力の高さを象徴する業務といえる。

4	技術本部	新津郷地区排水整備構想検討（国：信濃川水系土地）	樺澤一夫	山本 茂	高野陽平 宇津木悟史 赤堀悦朗
---	------	--------------------------	------	------	-----------------------

精度の高い「内水氾濫解析モデル」を構築し、地域の現状と整備の方向に即して、発注者の意向に沿った実現性の高い対策案を取りまとめた。

また工期（200日間）が限られ、他社受注業務との関連もある中で、手戻りが生じるポイントを予め想定し計画的に業務を進めた。

本業務の成果は発注者等から高く評価されており、本解析モデルの活用による更なる業務展開が大いに期待できる。

5	用地部	国道8号用地調査等 (国：新潟国道)	八子純児	廣田俊一	長谷川幸治 小黒孝紘 五十嵐謙二 鈴木正明
---	-----	-----------------------	------	------	--------------------------------

国道8号の拡幅事業における用地調査業務である。調査を円滑に進め、よい調査結果を得るには、調査対象者から気持ちよく協力してもらう必要がある。

そのことが管理技術者をはじめ担当者間で徹底されている。その一例として、土地所有者等に連絡する前に権利関係を入念に調べて、「血縁者間であっても最初に誰に連絡するか。」まで気を配っている。

また、成果報告書は他に例を見ないほどわかりやすくまとめられており、それを見ただけで丁寧に業務が遂行されていることがわかる。